



（徳大塚製薬工場 松茂工場（徳島県板野郡松茂町））。紀州や淡路島を望む紀伊水道沿岸の工業団地内にある合理化された高性能の輸液工場で、ソフトバッグ輸液製造の主力工場です。当社が世界で初めて開発したダブルバッグタイプの抗生物質キット製剤の製造も行っています。

<https://www.otsuka.com/>

関連情報をウェブサイトに掲載しています

財務情報や株式情報など、より詳しい情報をウェブサイトに掲載しております。ぜひご覧ください。





「世界の人々の健康に貢献する なくてはならない企業」を目指して

代表取締役社長 兼 CEO 樋口 達夫

株主の皆様には、平素より格別のご支援・ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度の平成30年7月豪雨により被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

当社グループは、現在、最終年度を迎えた第二次中期経営計画の完遂に向け鋭意推進しております。本中計では、持続的成長に向けた投資と、収益の多様化を目指した構造改革を基本方針に「医療関連事業におけるコア治療領域フランチャイズの強化」「ニュートラシューティカルズ関連事業の変革・構造改革」を重点施策としています。

医療関連事業においては、国内外の新薬群が計画通りに進捗し、事業の多様化を進めるとともに、精神・神経、がん、循環器・腎領域を中心に持続的成長に向けた積極的な研究開発投資を行いました。その結果、本年4月の抗精神病薬「レキサルティ」の日本発売、同4月のADPKD治療薬「ジンアーク」の米国承認など、グローバル新製品群の価値最大化のためのライフサイクル

マネージメント計画は順調に進展しております。また、米国では医薬品と医療機器を一体化して開発された世界初のデジタルメディスン「エビリファイ マイサイト」が承認され、今後新たな形での貢献が期待されています。

ニュートラシューティカルズ関連事業では、継続して取り組んできたグローバル展開を更に加速させるとともに、国内においては、健康寿命の延伸をテーマに、消費者が気づいていないニーズに応える製品開発を推進し、ブランド価値のさらなる浸透を強化していきます。

当社グループは、これからも“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”の企業理念のもと、革新的製品とソリューションをもって社会的課題へ取り組み、「世界の人々の健康に貢献するなくてはならない企業」を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、世界に向けて、次代のトータルヘルスケアを発信する大塚グループのさらなる飛躍にご期待いただくとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

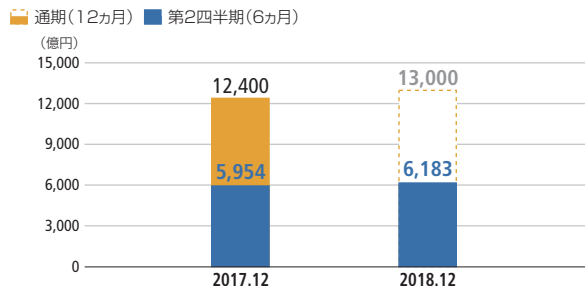
Financial Highlights

連結財務ハイライト(第2四半期累計)

当社は国際財務報告基準(IFRS)を適用しています。

売上収益

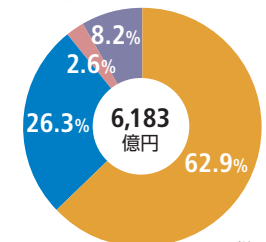
6,183億円 [3.9%増(前年同期比)]



医療関連事業においては、グローバル3製品である「エビリファイメンテナ」「レキサルティ」「サムスカ/ジンアーク」及び「国内新薬」が大幅に売上を伸ばしました。一方「プレタール」「ムコスタ」「ティーエスワン」等の長期収載品は、日本国内における薬価改定の影響及び後発医薬品使用促進策により売上が減少しております。NC*関連事業においては、2017年9月に子会社となったデイヤファーズ社の貢献により、売上が増加しました。これらの結果、売上収益は6,183億円(前年同期比3.9%増)となりました。

事業セグメント別売上収益

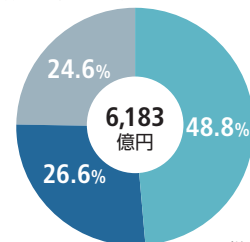
外部顧客に対する売上収益



(億円)
 医療関連事業 3,892
 NC*関連事業 1,624
 消費者関連事業 161
 その他の事業 507

市場別売上収益

外部顧客に対する売上収益

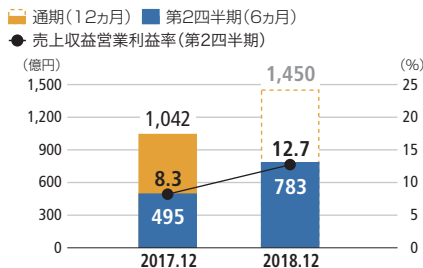


(億円)
 日本 3,020
 北米 1,641
 その他 1,522

* ニュートラシューティカルズ= nutrition(栄養)+pharmaceuticals(医薬品)の造語

営業利益

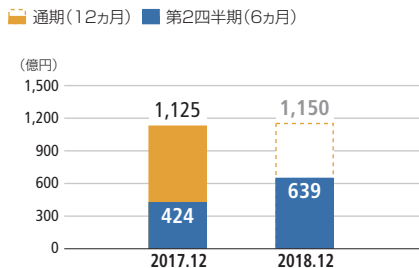
783億円 [58.2%増(前年同期比)]



売上収益の増加に伴い売上総利益が増加するとともに、当社の関連会社であったリコーメディカル Inc.を完全子会社化し、IFRSの定めによる既存の持分及び既存の契約関係の再評価益を177億円計上したこと等により、営業利益は783億円(前年同期比58.2%増)となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

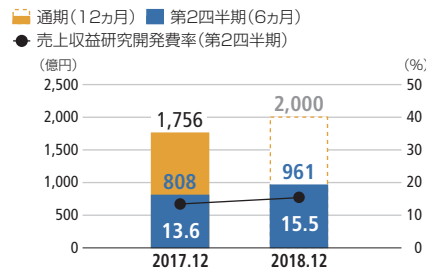
639億円 [50.6%増(前年同期比)]



税引前四半期利益は807億円(前年同期比66.5%増)となり、親会社の所有者に帰属する四半期利益は639億円(前年同期比50.6%増)となりました。基本的1株当たり四半期利益は、117.88円となっています。

研究開発費

961億円 [19.0%増(前年同期比)]



当第2四半期は「バダデュスタット」や「レキサルティ」の開発が進捗していること及び「センタナファジン」等について88億円の減損処理による研究開発費を計上した結果、研究開発費は961億円(前年同期比19.0%増)となりました。

配当金

当期における中間配当金は、1株当たり50円とさせていただきます。

当期の年間配当金につきましては、中間配当金を含め、1株当たり100円(うち期末配当金50円)を予定しています。

詳しい内容は、ウェブサイトをご覧ください

<https://www.otsuka.com/jp/ir/>

Segment Information

セグメント別概況



医療関連事業

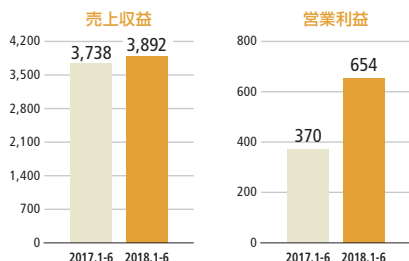
Pharmaceutical Segment

精神・神経領域では、抗精神病薬持続性注射剤「エビリファイメンテナ」*について、統合失調症治療薬としての有効性と製剤の利便性に対する評価に加え、米国における双極性障害治療薬としての効能追加が貢献し、売上収益がグローバルで増加しました。新規抗精神病薬「レキサルティ」は、2015年に大うつ病補助療法及び統合失調症治療薬として米国で発売以降、新たな治療選択肢として、有効性と安全性に対する高い評価を受け、売上収益は大幅に増加しています。また、日本においても2018年4月に統合失調症治療薬として上市しました。

がん・がんサポータティブケア領域では、抗悪性腫瘍剤「ロンサーフ」の米国における売上収益が減少しましたが、日本においては治療切除不能な進行・再発の大腸がんに対する標準療法の一つとしての位置づけを確立し、欧州での販売国も増加しています。

循環器・腎領域では、「サムスカ/ジンアーク」が、経口水利尿薬及び腎臓の難病である常染色体優性多発性のう胞腎(ADPKD)に対する世界唯一の治療薬として、引き続きグローバルで成長しています。

業績推移(億円) ■ 第2四半期(6ヵ月)



事業セグメントの「業績推移」の金額はセグメント間の内部売上収益が含まれています。

*: 日本での製品名「エビリファイ持続性水懸筋注用」

TOPICS

大塚製薬創製「JYNARQUE®」 米国初となるADPKD治療薬として販売承認取得

大塚製薬が創製した「トルバプタン(米国製品名: JYNARQUE®)」が、米国における初めての常染色体優性多発性のう胞腎(ADPKD)の治療薬として米国FDAより、販売承認を取得しました。日本では2014年より「サムスカ」という製品名ですでに展開しています。この難病で悩む患者さんに病気の進行を遅らせる治療の提供が期待されています。

開発品の状況

当第2四半期における当社グループの研究開発費は961億円です。

うち、医療関連事業における研究開発費は911億円、ニュートラシューティカルズ関連事業においては27億円、消費者関連事業においては3億円、その他の事業においては20億円です。

開発品目一覧

2018年6月末現在で第Ⅲ相臨床試験段階(フェーズⅢ)以降にある開発品目を以下に示します。

領域	開発コード「製品名」 (一般名)	効能/剤型	開発段階					
			日本		米国		欧州	
			フェーズⅢ	申請中	フェーズⅢ	申請中	フェーズⅢ	申請中
精神・神経 領域		大うつ病/経口剤					●	
	「レキサルティ」 (プレクスピプラゾール)	統合失調症/経口剤						承認 ^{※1}
		アルツハイマー型認知症に伴うアジテーション/ 経口剤			●		●	
		双極性障害/経口剤			●		●	
	ASC-01 (アリピプラゾール・セルトラリン)	大うつ病/経口剤		●				
	AVP-786 (重水素化デキストロメトルファン・キニジン)	アルツハイマー型認知症に伴うアジテーション/ 経口剤			●		●	
	Lu AA36143 (ナルメフェン)	アルコール依存症/経口剤		●				
TEV-48125 (フレマネスマブ)	片頭痛/注射剤	● ^{※2}						
がん・がん サポータィブ ケア 領域	TAS-102「ロンサーフ」 (トリフルリジン・チピラシル)	胃がん/経口剤	●		●		●	
	TAS-118 (テガフル・ギメラシル・オテラシル・ホリナート)	胃がん/経口剤	●					
		急性骨髄性白血病/注射剤	●		●		●	
	SGL-110 (グアデスタピン)	骨髄異形成症候群/注射剤	●		●		●	
	ASTX727	骨髄異形成症候群/経口剤			●			
循環器・腎 領域	「サムスカ」 (トルバプタン)	抗利尿ホルモン不適合分泌症候群/経口剤	●					
	AKB-6548 (バダデュスタット)	腎性貧血/経口剤			●		●	
その他 領域	「ムコスタ点眼液」 (レバミピド)	ドライアイ/点眼剤(マルチドーズ)	●					
	「デルティバ」 (デラマニド)	多剤耐性結核/経口剤			●			
	OPF-105 (糖・電解質・アミノ酸・脂肪・ビタミン)	末梢静脈栄養輸液/注射剤	●					

※1 2018年7月承認 ※2 フェーズⅡ/Ⅲ

Segment Information

セグメント別概況



ニュートラシューティカルズ関連事業

Nutraceutical Segment

天候要因等に伴いスポーツドリンク市場が低迷するなか^{*1}、水分・電解質補給飲料「ポカリスエット」は、若年層を中心とした積極的なコミュニケーション活動等により、日本国内の販売数量は前年同期並に推移しました。20カ国以上の国と地域で展開する海外においても、中国やインドネシアなどで製品価値に対する理解が進み、販売数量が増加しています。

炭酸栄養ドリンク「オロナミンC」の販売数量は前年同期並に推移しました。

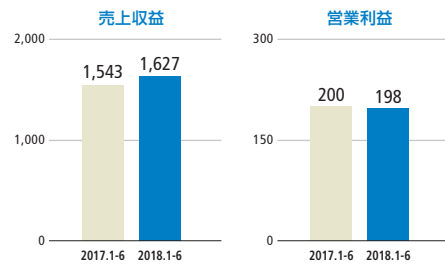
栄養バランス食品市場においてトップシェア^{*2}の「カロリーメイト」は、多様なシーンで手軽にバランスよく栄養を補給できる利便性が浸透し、販売数量が伸びました。

米国ファーマバイト社のサプリメント「ネイチャーメイド」は、米国市場の拡大傾向^{*3}も相まって売上収益が増加しました。また、2017年に買収したデイヤフーズ社も、北米でプラントベース（植物由来）食品を開発・製造販売し、成長を続けています。

欧州ではニュートリション エ サンテ社が、フランスの健康食品No. 1ブランド^{*4}「ジェルブレ」等の栄養・健康食品を、欧州を中心に40カ国以上で展開しています。



業績推移 (億円) ■ 第2四半期(6ヵ月)



事業セグメントの「業績推移」の金額はセグメント間の内部売上収益が含まれています。

*1: インターJSRI 2018/1-6 ▲4.0% 無断転載禁止

*2: インターJSRI 栄養バランス食品(種別: クッキー・ビスケット、シリアル、ケーキ)市場 2018/1-6 30.7% 無断転載禁止

*3: ©2018, The Nielsen Company, 米国xAOCチャネル 2018/6/30までの26週 5.0% 無断転載禁止

*4: IRI社 フランススーパー向け栄養食品市場調べ(2017年) 無断転載禁止

TOPICS

スッキリ目覚め習慣を提案 「賢者の快眠 睡眠リズムサポート」全国展開

大塚製薬は、就寝・起床リズムを整えることにより、睡眠の質を高めること(スッキリした目覚め感)をサポートする機能性表示食品「賢者の快眠 睡眠リズムサポート」の販売を全国(ドラッグストア)で開始しました。本製品は、体内リズムの乱れに着目し、「アスパラガス由来含プロリン-3-アルキルジケトピペラジン」を関与成分とする機能性表示食品で睡眠(生活)リズムを整え、イキイキとした生活サイクルをサポートします。

4つの機能

- 睡眠の質を高めること(スッキリした目覚め感)をサポート
- 就寝・起床リズムを整える
- 休日明けのおだやかな気持ちの維持をサポート
- 希望する時間より早く目覚めてしまうことを和らげる

特長

- 顆粒なので水なしで飲む
- 爽やかなグレープフルーツ風味

内容量 21g (3g×7包)/90g (3g×30包)

希望小売価格 7包 1,280円/30包 4,980円(税抜)

公式ブランドサイト <https://www.otsuka.co.jp/knk/>



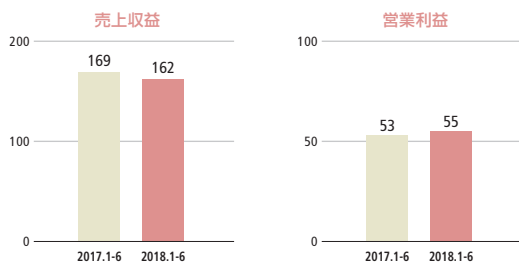


消費者関連事業

Consumer Products Segment

ビタミン炭酸飲料「マッチ」は、積極的なマーケティング戦略や、ミックスベリー味の「ベリーマッチ」リニューアルに伴う増販が寄与し、販売数量が伸長しました。「クリスタルガイザー」を中心とするミネラルウォーターは、通販チャンネルにおける減少等により、全体の販売数量は減少しました。

業績推移 (億円) ■ 第2四半期 (6ヵ月)



事業セグメントの「業績推移」の金額はセグメント間の内部売上収益が含まれています。



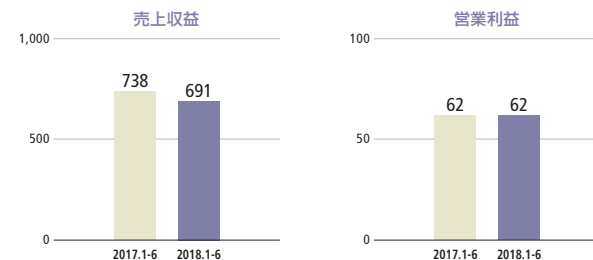
その他の事業

Other Segment

機能化学品分野では、水加ヒドラジンや摩擦材等の販売数量の伸長等により、売上収益が増加しました。ファインケミカル分野では、受注の期ずれ等が影響し減収となりました。

運輸・倉庫分野の売上収益は、前年同期並に推移しました。通販サポート事業と保険事業では、取扱件数の増加や契約件数増加等により増収となりました。

業績推移 (億円) ■ 第2四半期 (6ヵ月)



事業セグメントの「業績推移」の金額はセグメント間の内部売上収益が含まれています。

CSR

トピックス

グループの価値創造ストーリーを理解いただく「統合報告書」を発行

当社は、これまで活動内容や事業概況、財務情報を紹介する冊子として「アニュアルレポート」を作成してきましたが、大塚グループの企業理念に基づいた価値創造ストーリーを理解いただくため、2017年12月期から「統合報告書」を発行することとしました。「統合報告書」では、CSR活動や多様な人材登用など、当社グループの成長を実現するための基盤となる非財務情報を、財務情報と併せて紹介することで、当社グループの「強み」と目指すべき姿に向けた取り組みを包括的に報告します。



■ 会社概要 (2018年6月30日現在)

会社名	大塚ホールディングス株式会社 (Otsuka Holdings Co., Ltd.)
設立	2008年7月8日
資本金	816億90百万円
本店	〒101-0048 東京都千代田区神田司町二丁目9番地
東京本部	〒108-8241 東京都港区港南二丁目16番4号 品川グランドセントラルタワー
グループ会社数	子会社 155社、関連会社 27社

■ 株式の状況 (2018年6月30日現在)

発行可能株式総数	1,600,000,000株
発行済株式の総数	557,835,617株
株主数	46,917名

■ 大株主 (2018年6月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
野村信託銀行株式会社 大塚創業家持株会信託口	57,795	10.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	39,781	7.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	28,053	5.17
大塚エステート株式会社	23,296	4.29
大塚グループ従業員持株会	13,120	2.42
株式会社阿波銀行	10,970	2.02
JPモルガン証券株式会社	8,999	1.66
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	8,004	1.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	8,000	1.47
大塚アセット株式会社	7,380	1.36

(注)持株比率は自己株式(15,986,947株)を控除して計算しています。

■ 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
基準日	定時株主総会・期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日
定時株主総会	毎年3月
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告 公告掲載アドレス https://www.otsuka.com/ (ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

■ 株主優待について

対象となる株主様	毎年12月31日現在の株主名簿に記録された100株(1単元)以上の当社株式を保有する株主様
ご優待の内容	3,000円相当の当社グループ製品
ご送付時期	4月中旬から順次ご送付予定

■ 株式に関するお手続きについて

株式に関する各種お手続きにつきましては、ご所有の株式が記録されている口座(証券会社等の口座・特別口座)によって窓口が異なりますので、ご留意ください。

お手続き・ご照会の内容	証券会社等の口座に記録された株式	特別口座に記録された株式
単元未満株式の買取・買増請求 届出住所・氏名等の変更 配当金の受領方法・振込先の変更	口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。	特別口座の口座管理機関である「三菱UFJ信託銀行株式会社」にお問い合わせください。
特別口座の残高照会 特別口座から一般口座への振替請求	—	—
郵便物の発送・返戻に関するご照会 未払い配当金に関するご照会 その他株式事務手続きに関する一般的なご照会	株主名簿管理人である「三菱UFJ信託銀行株式会社」にお問い合わせください。	—

大塚ホールディングス株式会社

詳しい内容は、ウェブサイトをご覧ください

<https://www.otsuka.com/>

